



令和2年度 学校安全総合支援事業 ～松崎町～



松崎町教育委員会

松崎町の紹介



松崎町の特徴

- 伊豆西海岸に位置する
- 日本で一番美しい村
- 海、山など豊かな自然
- ジオパークに指定
- 学問・文化的な風土
- 伝統的行事の継承
- △静岡県で最も人口の少ない町、高齢化
- △沿岸部の住居が多く、津波や高潮の危険
- △土砂災害の危険



国指定重要文化財「岩科学学校」



伊豆の長八美術館



ジオサイト「弁天島」

松崎の教育について

「松崎の教育」

【松崎町の教育目標】
「心に残る教育の充実を図り、
未来を担う心豊かな人を育む」



松崎幼小中の連携

松崎小学校を拠点校にした取組



松崎幼稚園




松崎小学校



松崎中学校

松崎の教育について

松崎幼・小・中 教職員のクレド



米とロマンの里

松崎町の幼・小・中教職員のクレド

- 私たちは、子どもの思いを誠実に受けとめ、努力し伸びようとする子供たちを育みます。
- 私たちは、信頼され応援していただける園・学校づくりをめざします。
- 私たち教職員は、お互いのよさを発揮し、協働して、松崎の教育を高めていきます。

重要文化財 岩科学校



二十世紀松崎町三つの実践運動
—— 大人も子どもも ——
明るくあいらず
はつきり返事
むっかき後こまつ

松崎町教育委員会 松崎町社会教育委員会
松崎町青少年問題協議会 松崎警察署少年警察協働員
松崎町区長会 松崎町PTA連絡協議会

21世紀松崎町 3つの実践運動



松崎の教育について

令和2年度の重点取組

- **学校安全総合支援事業の実施** → 「命を守る教育」
- **子供を知る会の充実** → 「組織で子供を見守る」
- **幼児教育の充実** → 「心を育む教育の基礎」
- 「松崎のうたを育てる会」への支援
→ 「地域との連携、ふるさとへの思い」

事業目標

児童生徒の安全教育及び地域コミュニティとの共助に対する意識を向上させ、地域において災害や防災に重要な役割を担える

○学校での安全教育

- ・新たな形での避難訓練の実施
→児童生徒が自分の身を守る力の育成

○教職員研修

- ・中核教員中心の取組、外部からの指導助言
→教員の資質向上

○地域での安全教育

- ・地域への発信、地域防災訓練への参加
→地域での安全教育体制の構築を図る



県の推進委員会から

- ①子供たちの縦のつながり、
成長に伴う系統的な学習のつながりについて
（拠点校の実践①②：6年生中心の活動）
（中学校の実践②④：共助の意識の向上）
- ②保護者の参加について
（拠点校での実践④：参観日での実施）
- ③松崎町の地理的特徴を考慮した安全対策について
（教職員研修①：アドバイザーによる講義）
（地域での安全教育①：小中学校間の動線の確認）

取組1: 拠点校での取組(交通安全教育)

実践1: 地区児童会(交通安全)



発達段階に
応じた目標

全校児童
(各地区ごとに集合)
町防災係
静岡県賀茂地域局
町教育委員会
※学校安全アドバイザー
(記録をもとに指導助言)



六年生による進行



振り返りの場
の設定

取組1: 拠点校での取組(下校時避難訓練)

実践2: 下校時避難訓練(災害安全)



全校児童
松崎小教職員
松崎中中核教員
町防災係
静岡県賀茂地域局
町教育委員会
※学校安全アドバイザー
(記録をもとに指導助言)



取組1：拠点校での取組（防災学習）

実践3：総合的な学習の時間（防災教育）



松崎小4年生
静岡県賀茂地域局
4年担任
中核教員



取組1：拠点校での取組（防災学習）

実践3：防災学習の感想



- ・けっこう津波の範囲が広いのでみんなで集まるところを話し合っておきたい。
- ・災害が来ると怖いから、今のうちから備えておこうと思いました。
- ・地震はいつ起こるか分からないから防災用のリュックやバックを準備しておきたい。
- ・津波が来るところに家がたくさんあって、松崎町全体がほぼ津波にのみこまれる。
- ・ランドセルで頭を守ることもできる。そのあと近くの高いところに逃げたい。

- ・地震がおさまってから歩いたら体がふらふら揺れた。
- ・机の足を押さえていても机が揺れた。
- ・緊急地震速報が怖かった。
- ・がたがた揺れて怖かったし、震度6強があんなに揺れるとは思わなかった。
- ・家族のことが心配になった。地震に備えたいと思った。



取組1：拠点校での取組（防災学習）

実践4：中核教員による防災学習（AR体験）



松崎小4年生（2校時）
松崎小6年生（5校時）
6年生保護者
静岡県賀茂地域局
学校安全アドバイザー
松崎中中核教員
町教育委員会



取組1：拠点校での取組（防災学習）

実践4：防災学習（AR体験）の感想

【6年生】

- ・津波の高さが高くてみんなが沈んでいた。津波の怖さが分かった。家族と避難場所を確認したい。
- ・外の車はもう見えなくなっていて、こんなに水が来るんだと思いました。見てみると私たちも水に流される深さだったので、怖いと思いました。
- ・自分が想定していた水位と全然違っていました。津波はここまで来ないと考えないで、いつ来ても助かるように対策したいなと思った。



津波の怖さを再確認

【4年生】

- ・地震が起きて津波がきたらどこまで水が来るかわかった。初めてのAR体験だったからすごくこわかった。みんなや車が水で見えなくなった。水がきたら逃げられないと思った。→地震が起きたらどこに逃げるか決めておく。
- ・のぞいたらみんながのみこまれていてこわかった。外を見ると家のみこまれていてすごかった。→これからはハザードマップで津波がどこまで来るか覚えておく。



【保護者】

- ・津波が来るとどんな状況になるのか分かった。
- ・学校周辺の様子を見ると、とても迎えに来ることはできない。

取組1：中学校での取組（防災学習）

実践1：地域学習中の避難訓練



松崎中学校生徒15名
（海岸近くで活動した生徒）
中学校中核教員
町教育委員会

横に並んでも広くて余裕だ。

段差が小さくて上りやすいね。



取組1：中学校での取組（防災学習）

実践2：防災講座



松崎中学校1年生
中学校中核教員
静岡県賀茂地域局



取組1：中学校での取組（防災学習）

実践3：中核教員による防災学習（AR体験）



松崎中学校2年2組
松崎中中核教員
町教育委員会

そこがぎりぎりセーフだよ。



保健室は水没だ。



取組1：中学校での取組（防災講演会）

実践4：防災講演会（ジュニア防災士自主講義コース）



松崎中学校生徒、教職員
山田町職員白土靖行 様
町教育委員会



取組2：教職員研修

実践1：学校安全アドバイザーによる講義 (第1回実践委員会)

○講義
「防災について考える」

桃山学院教育大学
村上佳司教授

参加者

小中学校学校長及び中核教員
賀茂地域局職員
町防災係
町企画観光課長
町教育委員会
※学校安全アドバイザー
(オンラインによる参加)

新たな視点

- ・避難するときの動線の確保
- ・避難所の収容人数
- ・各種マニュアルを見直す体制の構築

取組2: 教職員研修

実践2: 防災学習事後研修



参加者

学校安全アドバイザー
各校中核教員
静岡県賀茂地域局
町教育委員会

教室以外の場でも使えるのではないか。

中学では、気付いたことを伝え合う場があるといいね。

取組3：地域での安全教育

実践1：小中合同引き渡し訓練

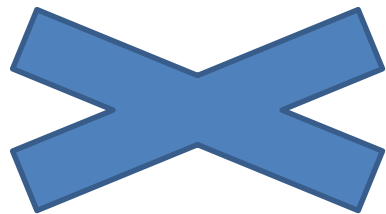


- ・学校への進入、帰宅を一方通行にした。
↓
- ・進入はスムーズだったが学校発が混み合った。
↓
- ・別の手立て、進行方向のさらなる場合分けが必要

取組3：地域での安全教育



新型コロナウイルス感染症



9月：総合防災訓練

12月：地域防災訓練

成果と課題

成果

- ・教育委員会と小中学校を中心に、関係機関と連携して防災教育に取り組んだことが、子供たちの安全意識の向上につながることが実感できた。
- ・ジュニア防災士の資格取得に向けた体験や学習を通して、共助への意識が向上した。
- ・防災を視点に校内で新たな取組を考えたり、先進的な取組を取り入れたりする機会があったことで、教職員の意識の向上につながった。
- ・学校安全アドバイザーから専門的な視野で指導助言を受けたことで、町と学校が抱える問題点が明確になり、今後の取組を考え直すきっかけとなった。

成果と課題

課題と今後の見通し

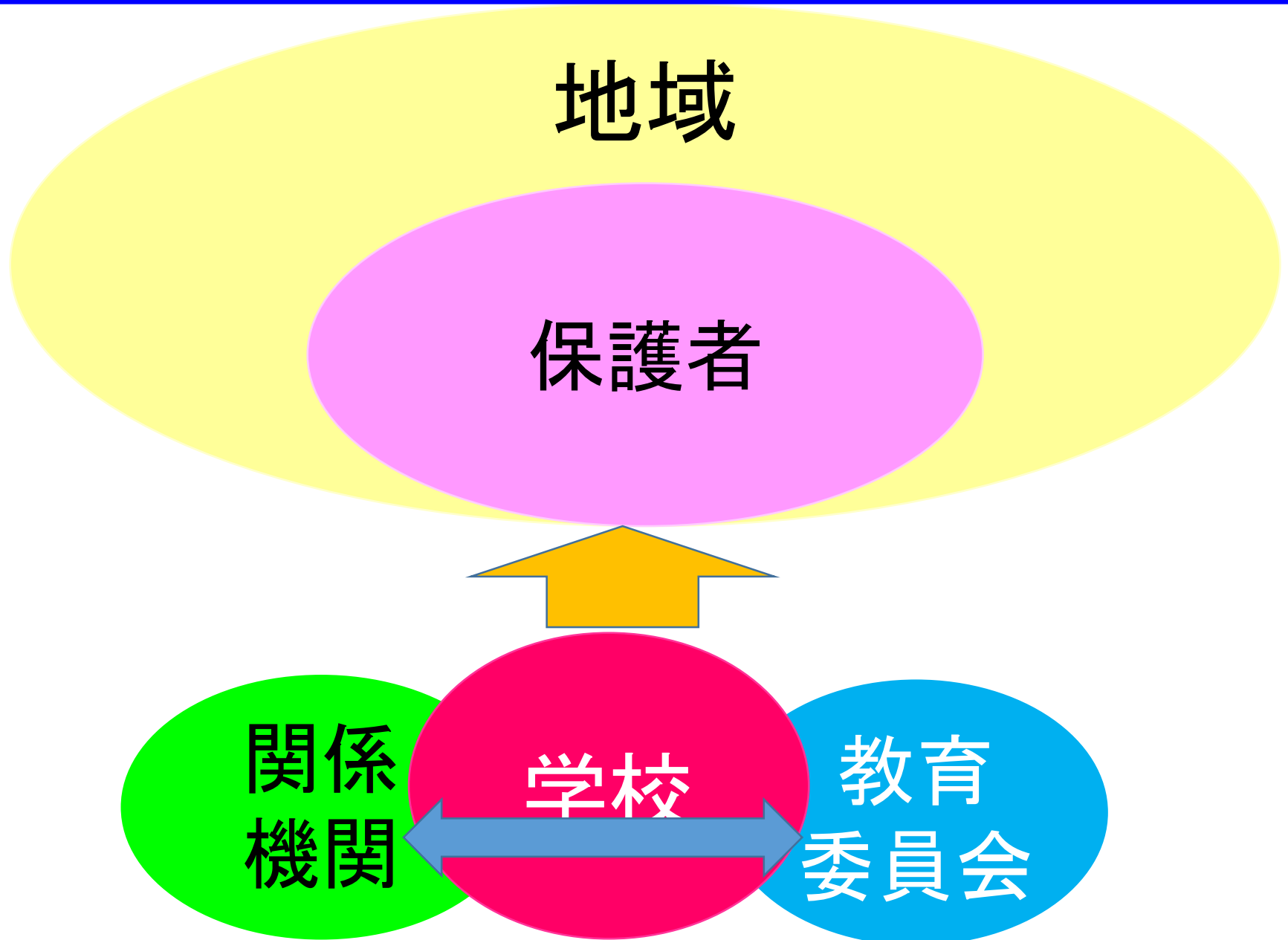
【課題】

- ・コロナ禍において、学校と地域の連携を推進することができなかった。とくに、子供の学習を実践につなげるため、保護者を巻き込み意識を向上させる手立てを考える必要性を感じている。
- ・各校において職員の安全意識の向上が図れたが、中核教員を中心とした研修や情報伝達の場の確保が難しかった。

【今後の見通し】

- ・各学校で防災学習を重点的に取り組む学年（小学校4年生と中学校1年生）をつなぐカリキュラム、その後のさらなる発展を目指すカリキュラムの構築を推進する。
- ・児童生徒が防災に対し主体的に取り組む心の育成を目指す。
- ・保護者の意識の向上を図るため、PTA総会や入学説明会、家庭教育学級などの機会を捉え、協力を促していく。
- ・学校と地域で連携し、町全体での安全体制の構築を図る。

成果と課題



松崎町の教育目標

「心に残る教育の充実を図り、
未来を担う心豊かな人を育む」



ありがとうございました。